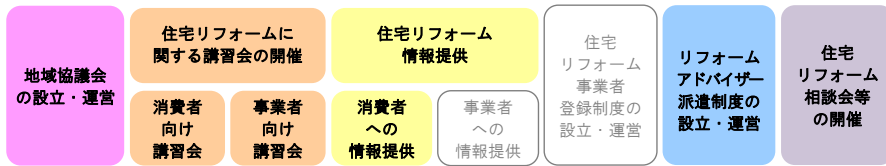


大阪府住宅まちづくり部都市居住課

## 17. 大阪の住まい活性化フォーラム



### 地域協議会の設立・運営

#### ◆運営・体制

中古住宅の質やイメージの向上、府民が安心して住める市場の環境整備の観点から、中古住宅流通・リフォーム市場の活性化を図り、もって府民の住生活の向上と大阪の地域力や安全性の向上に資することを目的としている。大阪府が事務局となり、行政、関連民間団体、事業者等と連携して協議会を設立、運営している。



地域協議会のしくみ

#### ◆相談窓口の運営・体制

平成26年度より、建築、不動産、金融、法律等の専門団体（司法書士会）等により構成された消費者のための相談窓口を設置しており、継続して運営した。今年度はさらに、弁護士会にも構成団体として参加してもらい、連携を強化した。また、さらなる連携の強化のため、不動産鑑定士協会や近畿税理士会へ参加を呼びかけている。

### 住宅リフォームに関する講習会の開催（消費者向け）

#### ◆その他消費者向けのシンポジウム

DIY 賃貸の普及により、空家を含む中古住宅市場活性化を図る。また、DIY ツールの普及・展開により、DIY プレイヤーの拡充を図る。DIY サポーターの取り組みを普及することにより、DIY プレイヤーのレベルアップ及びオーナーの不安払拭を図る。連携により DIY 市場の活性化を図る。以上のことを目的とし、DIY やリフォーム、不動産に関連する方々を招いて消費者向けシンポジウムを行った。

シンポジウムのタイトルを「住まいの DIY カルチャーの発信地、大阪で考える～ DIY はブームで終わるのか？文化になるのか？」とし、平成29年1月15日、大阪市（大阪市立住まい情報センター）において開催した。当日は参加者107名と盛況であった。出演者はDIY 工務店 久田カズオ、樋口よしのぶ、UR DIY 部部長 小正茂樹、WALPA STORE 岡本美岐、大阪府住宅供給公社住宅整備部団地再生課 田中陽三、SUUMO 編集長 池本洋一（コーディネーター）。



シンポジウムの様子



シンポジウムの案内

### 住宅リフォームに関する講習会の開催等（事業者向け）

#### ◆（独自企画）バリアフリー講習会テキスト改訂（講習会開催に向けた準備）

高齢者・障がい者向けの住宅改造の計画・設計等に的確に応じるには、福祉・医療・建築の各分野の専門家が連携し、住宅改造に取り込むことが大切である。そのために必要な「基本の知識」や「具体的な進め方」について理解を深めることを目的に、テキストの改定を実施した。

### 住宅リフォーム情報提供（消費者への情報提供）

#### ◆リフォーム・リノベーションコンクールの実施

5回目を迎えるコンクール。大阪府との共催事業であり、「大阪府知事賞」「大阪の住まい活性化フォーラム会長賞」を設けている。中古住宅をリフォーム・リノベーションして、住みたい街に住むことの魅力を広げていくことを目的に、大阪府内での事例を募り、優秀な事例を選定した。



大阪府知事賞作品

事前登録数56作品、作品募集期間は平成28年12月1～22日で応募数22作品のうち、6作品が入賞した。

### 住宅リフォーム専門家派遣制度の検討

#### ◆リノベーションまちづくり部会

異業種の専門家チーム及びその構成員の育成を図り、民間のアイデアで自立的に空家の連鎖的な利活用を図る、いわゆる「リノベーションまちづくり」を各市町村における地域のまちづくり戦略のもと、府内各地に展開するための仕組みや環境づくりを検討し、実行を図っている。具体的には勉強会を続けており、平成28年8月以降は4回の部会を行った。

平成29年2月7日には、寝屋川ふるさとリーサム地区を先行事例として、地域への専門家の派遣方法や、空き住宅所有者と民間事業者のマッチング支援の仕組みづくりについて検討した。また、リノベーションまちづくりを地域に浸透させるための啓発方法についても検討した。

### 住宅リフォーム相談会等の開催

#### ◆イベントにおけるリフォーム・リノベーションの普及啓発の実施

平成28年8月21日、大阪市（大阪南港 ATC）にて開催された「エネママまつり」を共催し、参加・体験型を中心としたブース出展により、普及啓発を実施した。

#### ◆相談窓口の実施

平成26年度より、相談窓口を設けており、継続して運営を行った。相談内容としては、借地権付建物（長屋）や「老朽危険家屋」と判定された空き家の売却やリフォーム、解体等についての相談が多かった。

また、府内市町村との共催で、消費者セミナーと個別相談会を計12回開催した。



相談窓口の様子